

令和5年度 事務事業評価シート（1）

[令和4年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	乳幼児発達相談指導事業			事業番号	014-017
担当部署名	子ども青少年	局	子ども青少年育成	部	子ども育成

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	3.将来に希望が持てる子育て・教育 ~Children's future~	施策	(1) 妊娠から学齢期まで切れ目のない子育て支援の充実
		寄与するKPI	有	取組の方向性	①妊娠・出産期から乳幼児期までの子どもと家庭への支援		
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	指標名	—		
		寄与するKPI	無	現状値	—	目標値	—

2	関連計画	堺市子ども・子育て総合プラン			
3	事業開始年度	昭和 58 年度	点検対象年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	母子保健法、発達障害者支援法			

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	各保健センター			
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	各乳幼児健康診査や保護者からの相談において心理・発達面で経過観察が必要な場合や、心理・発達面の相談が必要な乳幼児。	対象数	—	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	乳幼児の精神的な発達について、支援が必要な対象を早期に把握し、適切な支援につなげることで、保護者の子育ての不安を軽減し、安心して育児が行えるように支援する。			
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	乳幼児健康診査や保護者からの相談において、心理職が保護者ととも乳幼児の発達状況を確認し、保護者の思いに寄り添いながら相談や助言などを行う。(事前予約制)			
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など				
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)				
10	公民連携・協働事業				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績		目標	目標 点検対象年度	
	心理 (発達) 相談延人数	人	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和7年度	
			目標値	868	904	1,066	1,066
			実績値	886	896		
達成率	102%	99%					
	当該指標を選定した理由	当事業の対象者数を表す指標であるため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	目標値は、年度当初の相談件数(人)を算出。					
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績		目標		
	乳幼児健康診査 (1歳6か月児健診) 受診数	人	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
			目標値	5,905	5,598	5,500	
			実績値	5,787	5,539		
達成率	98%	99%					
	当該指標を選定した理由	乳幼児健診の受診を通して、発達課題の経過観察を必要とする対象をスクリーニングしているため。					
	目標値の設定根拠・算出方法	健診対象者数を算出。					

令和5年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	乳幼児発達相談指導事業	事業番号	014-017
-------	-------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和5年度	
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算	
事業費 (a)	1,246	1,012	1,301	919	1,301	
13 財源内訳	国支出金		0			
	府支出金		0			
	市債		0			
	その他 ()		0			
	受益者負担金(使用料、手数料等)			0		
	一般財源	1,246	1,012	1,301	919	1,301
14 人件費 (b)	984	984	984	984	1,439	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	2,230	1,996	2,285	1,903	2,740	

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度		事業費	うち一般財源
					R4	R5		
16 事業費内訳	謝礼金	R4 決算	809	809		R4	決算	
		R5 予算	1,001	1,001		R5	予算	
	消耗品費	R4 決算	110	110		R4	決算	
		R5 予算	300	300		R5	予算	
		R4 決算				R4	決算	
		R5 予算				R5	予算	
	R4 決算				R4	決算		
	R5 予算				R5	予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和3年度	令和4年度
① 相談件数(延)	件	886	896
② 上記①にかかる年間経費	千円	1,996	1,903
③ 単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	2,253	2,124
備考(算出についての説明等)			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	本市の出生数は減少傾向にあるものの、発達相談の利用件数は年々増加しており、相談機会の場が求められている状況にある。単位当たり経費は概ね変わらず推移している。
----	--

KPI等への寄与(基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19	知的障害や発達障害に関する社会的関心の高まりを背景に、乳幼児健診を通して保護者が子どもの発達段階を正しく認識し、その適切なかわりを確認する機会として非常に重要である。同時に、保護者の不安や戸惑いを受けとめ、思いに寄り添った指導や助言を行う場でもあり、その不安を軽減しながら安心して子育てをし適切な進路へ導く役割を果たしている。
----	---